

1. 第1回策定委員会での主な意見

平成30年11月16日(金)の第1回策定委員会では、主に以下のような意見が出されました。

(1)富良野市の景観特性やエリア分けの考え方

- 事務局提案のエリア分けで問題ない。
- 景観特性は概ね問題ない。

(2)富良野市の景観は生業が創りだし、観光にもつながっている

- 景観は経済活動と結びつく。田園景観は富良野市の景観の重要な要素であるが、農家の生業が創りだした景観である。
- 観光にとって景観は重要なポイントであると思うが、生活者の視点も含めて整理していけるとよい。
- 市民は富良野市の美しい景観に見慣れてしまっている。市外や外国人の視点から富良野市の守るべき景観を考える必要がある。

(3)景観計画の役割

- 富良野市に現在あるが、まだ見つけられていない景観を見つけて、新しい魅力としていきたい。
- 写真家は魅力的な景観をよく知っているプロフェッショナルである。写真家の意見も聞いてみてはどうか。
- 景観計画が最終的なアウトプットとしてどのような手段となりえるのかを見せた方がよい。

(4) エリアごとの景観づくり

① 市街地景観エリア

- 市街地に増えてきている空き家やシャッターが降りた店舗は寂しげな印象を与える
- 富良野市全体が、花植えなど四季それぞれの景観づくりをしていく必要がある。

② 北の峰景観(リゾート)エリア

- 都市計画で農地と観光地を明確に線を引いてもらえると助かる。
- 北の峰から御料に立地するホテル自体のデザインが良くても、街並みとしての一体感が必要である。

③ 田園景観エリア

- 富良野市では農業委員会による農地保全、農業振興がしっかりと行われている。
- 田園景観は観光資源になっているが、農家の生業から生まれていることが共有されるべきである。
- 山部地区などでは所有者のいなくなった廃屋のような納屋が見られるため対応を検討していく必要がある。

④ 森林景観エリア

- 富良野市の7割は森林であるため、まちの景観を形成する大事な要素である。
- 人工林(カラマツ)は切ったあとに必ず、新しく木を植えるようにしている。
- 天然林はできるだけ切らないように守っていくべきである。
- 東大演習林では、子どもたちへの一般開放を行い、自然についての理解を深める活動をしている。

⑤ 沿道景観エリア

- 富良野市は観光の面からも富良野圏域としての役割が大きい。広域の視点を持って考えることも必要である。



地区別・関係者ヒアリングの実施

2. ヒアリング結果の概要

(1) 実施概要

	団体	日時	場所	参加者
1	東山地域連絡協議会	平成30年12月12日(水) 13:00～15:00	東山支所	3人
2	麓郷振興会	平成30年12月12日(水) 15:30～17:30	麓郷集落センター	4人
3	富良野市歴史的建造物 調査委員会	平成30年12月13日(木) 9:00～10:30	生涯学習センター	2人
4	移住者の会 「フードの会」	平成30年12月13日(木) 11:00～12:30	富良野市役所	4人
5	山部地区総合振興協議会	平成30年12月21日(金) 13:00～14:00	山部支所	4人

(2)ヒアリング結果

①景観は「観光資源」

- 山林や農地などは、市民にとって見慣れた景観と感じている。
- 日々の営農活動が富良野市の景観を創っていると考えると、誇りを感じる。
- 移住者、旅行者から自然環境や田園景観を評価されることは良い。

②農地への観光客の立ち入り

- 東山、麓郷、山部などの伸びやかな農地が広がるエリアでは、観光客などが農地に勝手に立ち入る状況が見られる。
- 農地が形成する景観が評価されることは良いが、農作物を勝手に取られてしまうことが起きている。
- 農地への立ち入りやルールなど、何らかの対応が必要ではないか。

③農地の大規模化と維持管理

- 高齢化に伴い、農業の後継者が減ってきている。離農する農家もいる。
- 離農した農地は近隣の別農家が管理する傾向にあり、農地の大規模化が起き始めている。
- 新規就農者の育成や受け入れは、行政主導で進められている。
- 遊休地を新規就農者に貸し出すことはないため、一度遊休地になると、元の農地に戻る可能性は低いと考えられる。

(2)ヒアリング結果

④歴史的建造物、樹木の保全と活用

- 富良野市の歴史的建造物の多くは、個人所有(民間)のものが多い。公共の建造物は少ない。
- 市指定の文化財はない。
- 富良野市の歴史的建造物の特徴として、農産物の保管や農具庫など農業に関わるものが多い。地域産業として農業が大事であると言える。
- 建築的に価値が高いものとして、渡部医院、島田邸などが挙げられる。
- 個人所有の歴史的建造物は、カフェや飲食店舗として、リノベーションする事例がある。主に、移住者の方が活用している傾向にある。
- 鳥沼公園は富良野盆地の原風景を表わしており、自然環境の価値が高い。

⑤まちのイメージと合わせたクリーンな農業

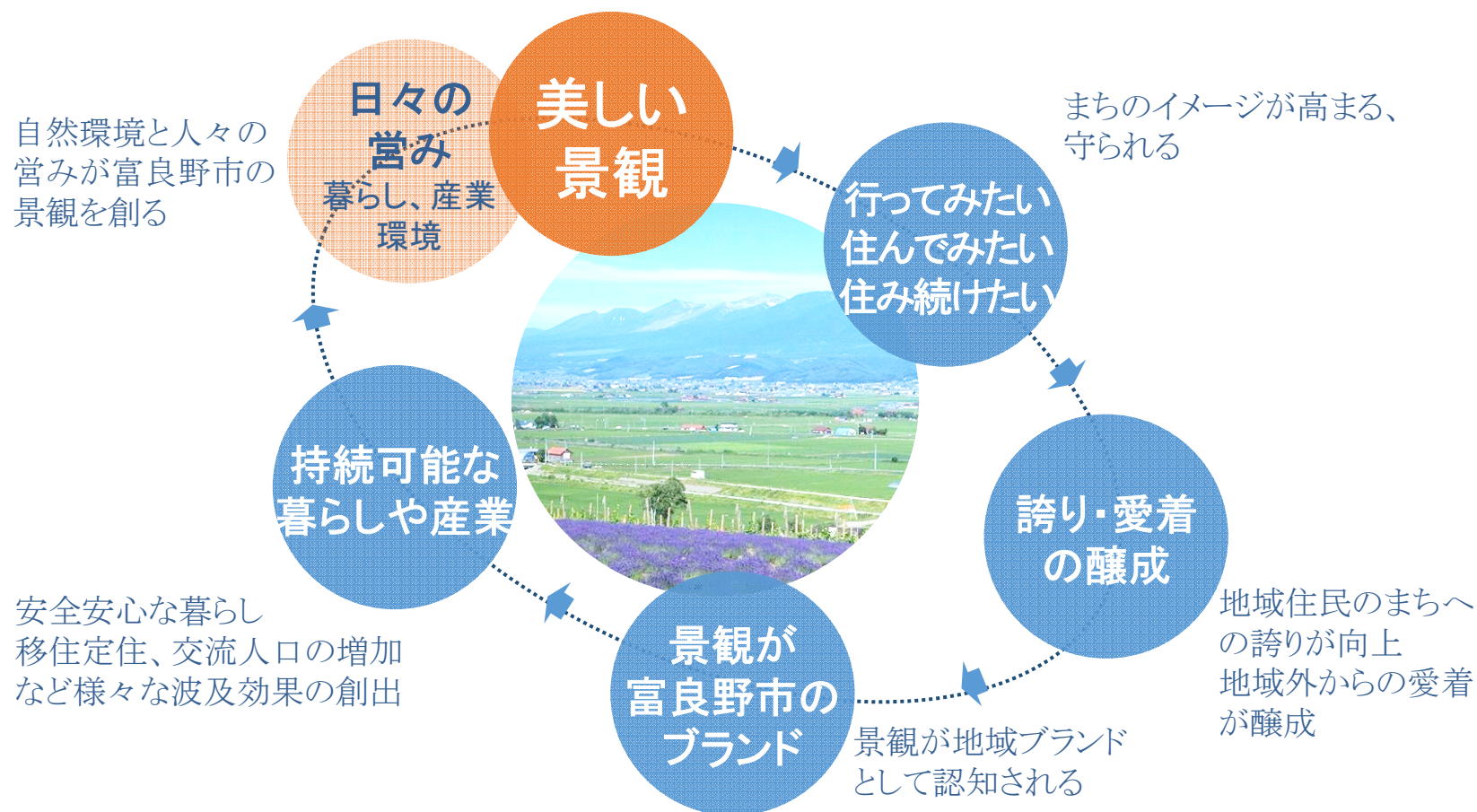
- 酪農業を営む農家では、農協や行政による営農環境(畜産施設の環境美化)のチェックがある。
- きれいな営農環境で生成された食品が、クリーンな農業とまちのイメージを形成するという理念で実施されている。

⑥市街地、リゾートエリアの景観誘導(エリアごとの景観誘導)

- 東山、麓郷、山部地区の農地は現状、海外資本による農地買収などは考えにくい。
- 周囲の景観との調和を無視した開発は、市街地と北の峰や御料で起きる可能性がある。
- 清水山の方面も無秩序な開発が起る可能性が考えられる。

○富良野市の景観価値(景観特性、ヒアリングから)

- 富良野市の景観の価値は、暮らしの営みそのものにあると言えます。
- 景観づくりが進むことで、美しい景観が守られると同時に、景観が富良野市のブランドとなりまちの価値を高めます。



参考:寒地土木研究所・KITABAの研究資料

3. 富良野市の景観づくりの全体像

富良野市の景観特性

- 景観の骨格を創り出す自然・地形
- まちの成り立ちや産業を物語る歴史・文化
- 市外の観光客に評価される景観資源
- 自然環境に垣間見る市民の愛着
- 広域の中の拠点都市

ヒアリング結果(景観づくりの課題)

- 農地への観光客の立ち入り
- 農地の大規模化と維持管理
- 歴史的建造物、樹木の保全と活用
- まちのイメージと合わせたクリーンな農業
- 市街地、リゾートエリアの景観誘導(エリアごとの景観誘導)

美しい自然環境を背景とした人々の営みが景観を創り、観光資源となっている

美しい景観を守っていくための
景観計画による景観誘導

×

人の営みが創り出す
景観のマネジメント

景観と農業や観光が密接に連動しているため、仕組みがあることで持続可能となる

景観誘導と景観のマネジメントの考え方を踏まえた景観計画

基本理念(目指す姿)、基本方針

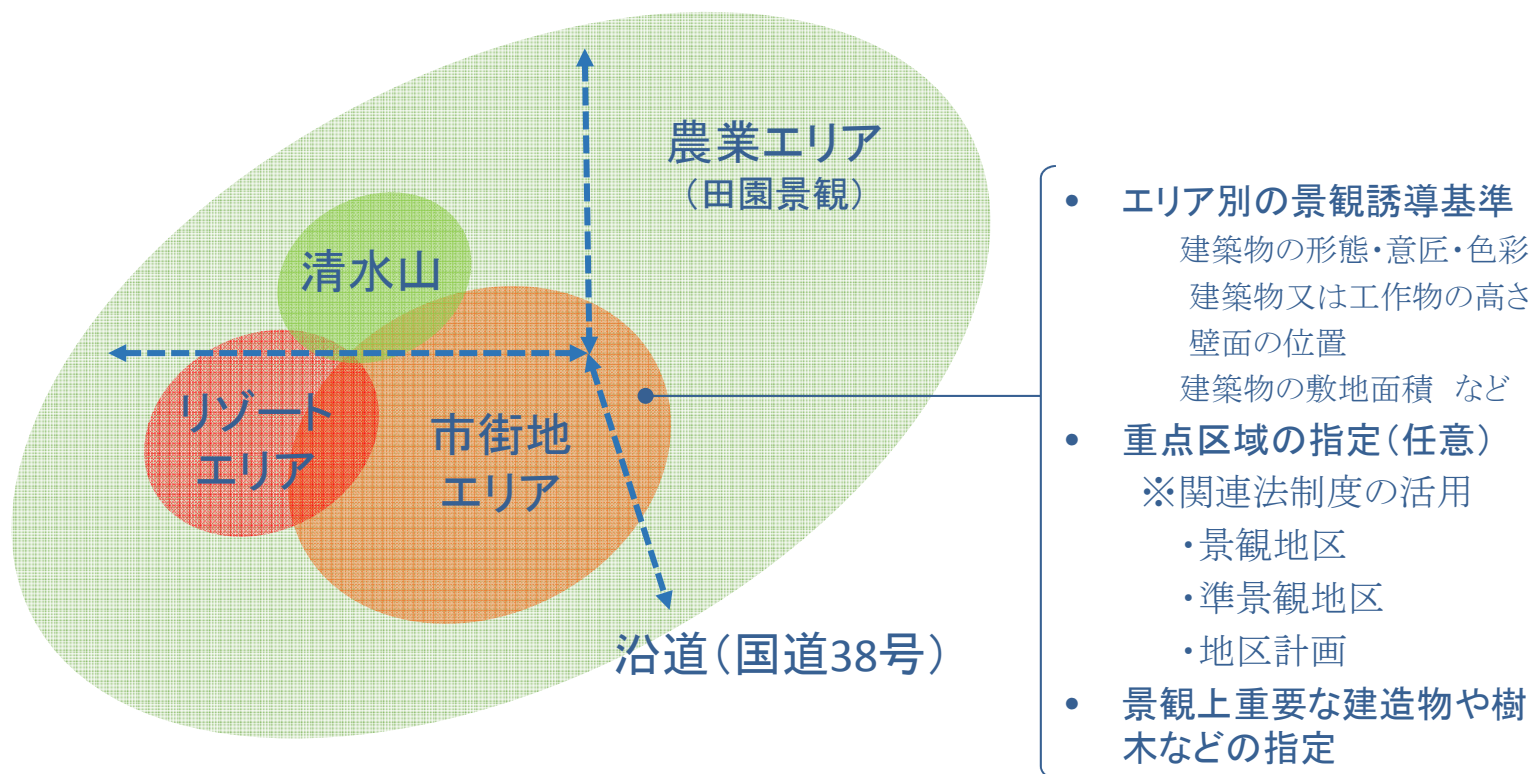
景観計画の区域

エリアごとの景観づくりの展開

富良野市の持続的な景観づくりを進める

(1) 景観計画による景観誘導

- 景観法に基づく景観計画の中の、行為の制限に該当する「景観形成基準(景観づくりのルール)」「届出対象行為(対象となる行為を行なう際の届出制度)」を定めることで、誘導を図ります。
- 景観誘導の範囲は富良野市全域が考えられます。また、富良野市の特性やヒアリング結果から、エリアごとに景観づくりを図ることが考えられます。



(2) 景観のマネジメント

- 景観のマネジメントは、保全・整備・活用による進める仕組みと考えます。
- 今の富良野市の景観が形成された過程や経済活動の中にも「景観のマネジメント」の考え方が息づいているため、仕組みとして認知されることで、持続的な景観づくりの効果が高まると考えられます。

